原始惑星系円盤からの水素分子輝線:ダスト成長の影響

野村 英子、相川 祐理 (神戸大)、Tom Millar (Univ. of Manchester)

ABSTRACT

最近の近・中間赤外線、紫外線観測は 原始路星系円盤ガス質量を最も確実に下 レースする水素分子遷移線の観測を可力 温度中では、円盤のガス 温度分布、水素分子各なでは、円盤のガス 温度分布、水素分子各なでは、円盤のガス 環線をモデル計算した。特に円盤内をの水素分子入 環線をモデル計算した。特に円盤内分子 が、ゲスト表面の光電加熱を通じ、円の をからの水素分子類線へ及成長です影響にい、円の といて調べたと、ころ、クロスをには、円の といて調べたと、この特には、 ガス温度は低くなった。これにより、 バス温度は低くなった。これにより、 「高エネルギー率位の停在密度はしまり、 のーして、その結果、ダスト成長に伴い、ゲスト成長に伴い、ゲストなったがかった。 へい放文に行い、育不察が子が 比が変化することがわかった。

INTRODUCTION Tタウリ型星周囲からのH2輝線観測

//IR S(0)@28μm, S(1)@17μm, S(2)@12μm GG Tau, GO Tau, LkCa 15 by ISO (Thi et al. 2001) GG Tau, DG Tau by TEXES (Richer et al. 2002)

IIR v=1-0 S(1) @2.12μm GG Tau, TW Hya, LkCa 15, DoAr25 by NOAO (Bary et al. 2003) LkHα 264 by Subaru (Itoh et al. 2004)

UV TW Hya by HST, FUSE (Herczeg et al. 2002)

146 Lyman-band H₂ lines v=1-0, S(1) S(1) ---

Z



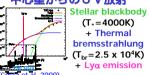
ダスト吸収係数 円盤中のUV光子量 ダスト上の光電加熱率 ガス温度



ダストサイズ分布 dn/da ザスト・ガス比 = 0.01 a_{max}= 10μm, 1mm, 10cm (Miyake & Nakagawa 1993)

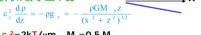
中心星からのUV放射

ダスト吸収係数



ガス密度分布

z方向の静水圧平衡



↑ z

 $c_s^2 = 2kT/\mu m_p$, $M_* = 0.5 M_s$

エネルギー・バランス (円盤面密度: Σ)

 $\frac{9}{4} \Sigma \alpha c_{s0}^{2} \Omega = \frac{3GM * M}{8 \pi x^{3}} \left[1 - \left(\frac{R *}{x} \right) \right]$

 $\dot{M}_{acc} = 10^{-8} M_s / yr (=const.), \alpha = 0.01$

円盤モデル

ガス温度分布

局所エネルギー平衡(Γ_{pe}+L_{gr}-Λ_{line}=0) FUV光子に起因する

ダスト上の光電加熱: Γ_{pe} OI, CII, CO遷移線による 輻射冷却: Λ_{line}

> ガス・ダスト粒子の衝突による 加熱・冷却: L_{qr}∝ (T_{gr}-T)

ダスト温度分布

局所輻射平衡 (吸収=再放射)

 $\int_{0}^{\infty} dv \, \kappa_{v} \oint I_{v} d\Omega = 4\pi \int_{0}^{\infty} dv \, \kappa_{v} B_{v} (T_{gr})$

加熱源

(A)赤道面における粘性加熱 (粘性)

(B)中心星からの照射加熱

辐射輸送方程式(軸対称2次元)

 $I_{\nu}(r, \Theta; \mu, \phi) = \int_{0}^{s} \kappa_{\nu} \rho(r', \Theta') B_{\nu}[T(r', \Theta')] d^{r}$ 球座標 Short characteristic 法 (Dullemond & Turoulla 2000)

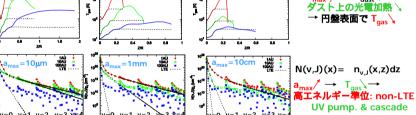


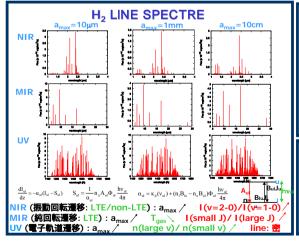
H₂ LEVEL POPULATION

Statistical Equilibrium

$$\begin{split} & n_{1}(H_{2}) \left[\sum_{m\neq i} \left(\beta_{lm} + \sum_{s} n(s) C_{lm}^{s} \right) + R_{diss,1} \right] \\ &= \sum_{m\neq i} n_{m} (H_{2}) \left(A_{ml} + \beta_{ml} + \sum_{s} n(s) C_{ml}^{s} \right) + n(H) R_{low,1} \\ & + H + H \\ & UV \\ \hline R_{form,l} \\ & + H + H \\ \hline & UV \\ \hline R_{diss,l} \\ & + H + H \\ \hline & - H +$$

計算結果:ガス温度分布(上段)・ H_2 Level Population(下段) a_{max}=1mm R=100AU a_{max}=10cm R=1000 a_{max} /→ n_{dust}、→ ダスト上の光電加熱 \







まとめ

原始惑星系円盤内のガス温度・密度分布 & 水素分子停在密度・輝線計算

円盤表面のガス温度: a_{max} / ダスト上の光電加熱へ 水素分子停在密度: a_{max} / 高エネルギー準位の停在数: LTE 水素分子輝線:a_{max}/ NIR: n(v=2)/n(v=1) / I(v=2-0)/I(v=1-0)/ MIR: n(small J) / n(large J) / I(small J) / I(large J) / UV: n(large v) / n(small v) / line 間隔: 密